

道教委教育長との賃金確定交渉報告 4年連続の賃金引き上げ、手当増額 超勤解消に向けて「強力に推進」を回答

11月17日午前8時30分、道庁別館8階会議室において、道教委教育長との「賃金確定最終交渉」が行われました。全道から23名の交渉団が参加し、現場の思いを語りながら教育長らに、切実な要求実現を迫りました。



道高教組札幌支部
(札幌市中央区大通西12丁目
北海道高等学校教職員センター
3階)
TEL 011-271-5875
FAX 011-271-5895

11月17日午前8時30分、道庁別館8階会議室において、道教委教育長との「賃金確定最終交渉」が行われました。全道から23名の交渉団が参加し、現場の思いを語りながら教育長らに、切実な要求実現を迫りました。

給料改定については、①改善額は、私たちの要求とは全く離れたものですが、粘り強いたたかひの中で、給与・一時金の4年連続のアップとなったことは重要です。初任や若年層(およそ30歳半ばくらい)の改善ははげしかったものの、高齢層では「現給保障」を越えない程度の増額のため実質的には変わらない内容になっていま

②期末手当については、「勤労手当」における配分であり「人事評価」の矛盾を一層拡大するもので許されるものではありません。平均4万円の増額回答となっています。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

【2面に続く】

【賃金確定交渉の主な結果】
1. 給料改定については人事委員会勧告どおり実施する
(1)月例給を484円(0.13%)引き上げる。初任・若年層は1,000円、それ以外は400円を基本に改定。
(2)ボーナスは、0.1ヶ月引き上げ、年4.4ヶ月(現在4.3ヶ月)。再任用は、0.05ヶ月引き上げ、2.3ヶ月。配分は、勤勉手当へ。
(3)上記(1)(2)は、2017年4月に遡り支給する。差額は、条例施行後速やかに支給する。

2. 教員特殊業務手当の増額について
(1)部活動手当を3,000円から3,600円に増額。
(2)修学旅行・対外運動競技引率指導手当を4,250円から5,100円に増額
*平成28年1月1日から実施する。

3. 「超勤解消」は「庁内一丸となって」強力に推進する
(1)部活動休養日の完全実施や調査業務の見直しはただちにとりくむ。
(2)勤務時間の客観的な把握・記録の具体的な方法について検討を行う。
(3)年度内にアクションプランを作成し、時間外勤務の一層の縮減に向けて、庁内一丸となつてとりくみを強力に推進。

「退職手当削減」に関わる交渉は今後の課題に、
「超勤解消」における現場の先生方への発言を促す
超勤解消を行政の責任で
古小牧支部 高校教諭

【2面に続く】



アンケートで働き方改善を! 丘珠高校 丸山 稔

過労死ラインと言われる60時間以上の学内勤務時間が36%を越える実態の中、今教職員の多忙化は最大の課題の一つです。ここでは私の職場(丘珠高校)で寄せられた32枚のアンケート(本校教職員の約半数)から、現場職員が何を求めているか考察してみよう。

まず、「大切したい業務」は何かという問いに、全員が「授業・授業準備」と答えました。これは裏を返せば、本分である授業(準備)になかなか時間を割けない嘆きが進められているようにも受け取れます。次に「削減したい業務」として、「事務処理」と答えた人が26人、次いで「官制研修」が21人。余計な仕事があるという思いは、ほぼ皆さんが共有している憤りです。「これら多忙化の要因に対して、道教委が実施している時間外勤務削減のとりくみに「効果的なものはない」と答えた人が25人。通り一遍等の「定時退勤日」の設定など、いままでも効力を発揮していないのです。

さて、このような過酷な勤務実態を管理職はどのように把握しているのでしょうか。もちろん管理職(特に教頭・副校長)は我々と同様な時間帯を過ごしているわけですから、実感として把握していることに間違いありません。しかし、

記録となるとどうでしょう。道教委や文科省に現実を突きつけるには、時間や理不尽な業務形態を記録しなければなりません。「あなた(学校)ではどのように把握していますか」との問いに、「何も行われていない」と答えた人が16人。つまり、管理職は無策だと感じているのです。これは業務管理責任の面から、大変問題のある事態でしょう。

具体的には何を削減するのか、あるいはどのような条件を整備する必要があるのか、10月22日(日)に行われました衆院選を数週間後に控える時期に、学年主任から「3年生に『主権者教育』を実施したいんだけど何か案はないか?」と相談を受けました。18日(水)の学年集会の内容がまだ確定していなかったため、その集会で私が担当して選挙の仕組みと意義をお話しすることにしました。本校の3年生は現在298名在籍しており、今回の選挙で選挙権を持つ生徒は154名です(選挙権は翌23日までの誕生日の生徒までが対象となります)。

さっそくプレゼンソフトで写真入りの資料を作成し、体育館で投影しながら説明することにしました。時期を同じくして日本新聞協

会から4紙(朝日・読売・毎日・北海道各紙)の新聞が一月間無料で送られてくることになりました。当日は約30分の時間をいただき、各政党の主張を対比した資料を話の最後に配りました。

まず、選挙の種類、仕組みから説明しました。多くの生徒は選挙の仕組みを理解していません。授業で活字を並べて説明されても、自分が誰を選んで、その人がどこで活躍しているのか具体的なイメージが湧いていないように感じています。「選挙行く」という選択肢が無くなる一つの要因で

秋のブロック会議 & 交流会より
札幌支部ではブロック交流会というものが6月11月と年に2回設定されています。ブロックは近隣の学校をまとめてA〜Fまであり、近隣の学校が集まりそれぞれの学校の様子や課題を交流し合います。今年も2回目が開催され、様々な内容が語られました。

札幌支部ではブロック交流会というものが6月11月と年に2回設定されています。ブロックは近隣の学校をまとめてA〜Fまであり、近隣の学校が集まりそれぞれの学校の様子や課題を交流し合います。今年も2回目が開催され、様々な内容が語られました。

教職員の定数増員」と答えた人が22人、「業務量に見合った人員の配置」に19人、「少人数学級の実現」17人、「部活動指導員の配置」16人と多岐に渡ります。そのどれもが切実な要求ですが、どのように運動を大きくしていくのか、さらなる議論が必要であると感じています。

この問題はもう何十年も語られてきた旧くて新しい問題です。しかし、世論が盛り上がりつつある今も逃したり、また何十年進展しないとも限りません。人任せではなく、全教職員・保護者・地域の方々と共同し、さらなる取り組みを続けていきたいと思います。

「主権者教育」の試み
10月22日(日)に行われました衆院選を数週間後に控える時期に、学年主任から「3年生に『主権者教育』を実施したいんだけど何か案はないか?」と相談を受けました。18日(水)の学年集会の内容がまだ確定していなかったため、その集会で私が担当して選挙の仕組みと意義をお話しすることにしました。本校の3年生は現在298名在籍しており、今回の選挙で選挙権を持つ生徒は154名です(選挙権は翌23日までの誕生日の生徒までが対象となります)。

さっそくプレゼンソフトで写真入りの資料を作成し、体育館で投影しながら説明することにしました。時期を同じくして日本新聞協

会から4紙(朝日・読売・毎日・北海道各紙)の新聞が一月間無料で送られてくることになりました。当日は約30分の時間をいただき、各政党の主張を対比した資料を話の最後に配りました。

まず、選挙の種類、仕組みから説明しました。多くの生徒は選挙の仕組みを理解していません。授業で活字を並べて説明されても、自分が誰を選んで、その人がどこで活躍しているのか具体的なイメージが湧いていないように感じています。「選挙行く」という選択肢が無くなる一つの要因で

「退職手当削減」に関わる交渉は今後の課題に、
「超勤解消」における現場の先生方への発言を促す
超勤解消を行政の責任で
古小牧支部 高校教諭

私は小間口高校で勤務しています。学校存続のために、校長が代わるたびに、特色を新しく打ち出すと教育課程などの見直しを行います。勤務時間内では絶対に終わらない業務を抱え、もう限界ではないかと思えるくらい疲れて

見極めるよう話をしました。まずはよくマスコミに出ている党首の顔写真を紹介し、各政党の主張をよく見ること、その政党の主張に共感できるかどうかが一番のポイントであることを読み取りました。

選挙は誰を選んだかと同時に、その選んだ人が公約を守るかどうか重要なという話で締めくくりました。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

今回の交渉を踏まえて、道教委が果たさなければならぬ役割が一層明確になりました。「退職金削減」問題については、国の動きなどと絡んで、今後の交渉課題となりました。削減を許さないたたかひをすすめましょう。

【2面に続く】

【1面からの続き】
場で個々の教員が削減できる業務などほとんどないのです。人員を増やすか、生徒の対応とは直接関係のない報告業務などの事務作業や、管理職が替わるたびに変わる業務の進め方など、行政が動かなければできない改革に取り組んでいただきたし、管理職の報告を通してでは絶対に見えない現場の実態を私たち現場の教員から聞き取ってほしいのです。

部活動指導の現実と課題

胆振 中学校教諭

私は中学校で、ソフトテニス部の顧問をしています。メインだった3年前は大変でした。生徒、保護者には「土日のどちらかは部活無しにする」ことを伝えていたが、現実的にはほぼ不可能でした。ソフトテニスの試合は、年間で21回あります。土日も1ヶ月に3〜4回は試合が入ります。大会にはポイントが付いていて、中体連大会のシードが決まるため、どの大会も休むことはできません。

土日は練習もないわけにはいきません。保護者からも「練習させてください」と言われます。こうして、ほとんどの土日は部活動をせざるを得ませんでした。試合は伊達市から厚真町まで胆振全域で開かれ朝7時半から夜8時ということも。交通費はもちろん自腹です。平日は毎日6時半までが部活動の時間となっています。6時半以降が授業準備などの時間になります。新採用4年目の野球部顧問は、毎日9時〜10時まで授業準備をしています。バドミントン部顧問は

いつ学校に行っても仕事をしていて、お子さんと一緒にいる時間があるのかと心配になります。サッカー部の先生は「先月の超過勤務が120時間を超えていた」と笑っていました。同じくサッカー部サブ顧問の女性教員は「旦那に毎日々食を作ってもらおうのが申し訳ない」と泣きながら相談してくれました。彼女は今年度いっぱい退職します。

「学力向上のための放課後学習日」になっているので、先生たちの忙しさは変わりません。部活指導の軽減とともに、手当の大幅な増額で、私たち現場の大変さに報いてほしいと思います。現在の手当では最低賃金をほんの少し上回る程度で、時間外の手当にも満たないレベルです。大会交通費以外にもソフトテニス部であれば、ラケットやシューズ、指導書などの購入ももちろん自腹です。手当の増額は絶対が必要です。現場を励ます回答をお願いします。

2017全道教職員「働き方改善アンケート」のまとめ(抜粋)

文科省・道教委が進める超勤削減の効果

学校で行われるすべての教育活動(業務)は、意義あるものですが、「根本的に仕事量が多すぎる」ことに超勤の原因があります。「無理ある仕事量と業務を見直し、自発的に超勤解消にとりくむ」ことを目的に、2017年7月〜9月にかけて、全道の小中学校・高校・特別支援学校で「2017全道教職員働き方改善アンケート」を実施し、合計2200名からの回答がありました。アンケートにご協力いただいた全道・札幌支部の教職員のみなさまに感謝申し上げます。

アンケートでは、「あなた自身が「大切にしたい」「削減したい」と考える業務」「道教委が実施している時間外勤務縮減にむけた重点取組」「労働時間の把握」「超勤改善への要求」などについて学校種ごとに集約し、昨年度道教委が実施した「時間外勤務等の縮減に向けた重点取組項目等の取組状況調査(10月)」「教育職員の時間外勤務等に係る実態調査(11〜12月)」の結果と比較して分析しています。ここではその一部を紹介します。

学校種や職種などによって超勤の実態と改善策は異なります。各職場においてアンケートの分析と議論がすすみ、超勤解消のための民主的な合意形成が図られ、超勤解消に結びつくことを切に願っています。

おいては、すべての職種で「30歳以下」の残業時間・持ち帰り時間が長く、勤務不要日でも40歳以下の青年層の割合が高く現れています。また、全校種において、へき地校が、非へき地校より残業時間が長くなっています。

この間、文科省はICT活用や「チーム学校」の実現による業務改善、道教委は「教育職員の時間外勤務等の縮減に向けた取組方策(2009年)」に基づき、取組をすすめているとされていますが、そうした政策では、超勤解消につながらないことは明確です。今回のアンケート調査でも、部活動休止日の設定や割振り変更制度の活用など、道教委の時間外勤務縮減重点取組について、6割以上の教職員が「効果的なものはない」と回答しており、寄せられた声から道教委の施策が、現場の実態とかけ離れている事が明らかになっています。

【3面に続く】

勤務実態調査が明らかになったもの

道教委が行った2016勤務実態調査では、小学校教諭の23.4%、中学校46%、高校35%、特別支援学校5.2%が「過労死ライン」に達する週60時間以上の勤務となっていることが明らかになっています。

業務内容では、勤務日を見ると、授業や授業外の学習指導を除き、全校種において「授業準備等」の時間が最も長く、続いて「集団への生徒指導」「職員会議等」、中学校、高校では「部活動・クラブ活

動」の時間が長くなっています。勤務不要日を見ると、小学校、特別支援学校では「授業準備等」、中学校、高校では「部活動・クラブ活動」の時間が前回調査より長くなっており、部活動の負担増が際立っています。さらに、勤務日に

おいては、すべての職種で「30歳以下」の残業時間・持ち帰り時間が長く、勤務不要日でも40歳以下の青年層の割合が高く現れています。また、全校種において、へき地校が、非へき地校より残業時間が長くなっています。

加速化する長時間過密労働の背景

全く改善がすすまない超勤の背景には、安倍「教育再生」のもとですむ、過度な競争主義教育と、管理・統制の教育があります。2020年度から順次全面実施される改訂学習指導要領についても、小学校で英語などが新たに盛り込まれますが、授業時間が削減される教科はありません。部活動においても、土日も休みなく練習が行われるなど、適切な休養日を設けられていなかったり、夜遅くまで指導に当たっている実態があります。教員数が減少しているものの、設置する部活動数の削減はすすんでおらず、部活動を指導する教員の超勤と負担は増大しています。また、事務室でも支援金業務などで仕事量が増大しているなど超勤が常態化しています。

超勤のことは間違いありません。超勤が深刻なのにもかかわらず、「子どものため」といった内発的な働きがいや、教育分野を超えた保護者・地域の期待により、「休みたい」という教職員の負担軽減や労働基本権の保障を求める声が、かき消される構造もつくられてきました。ブラック化する学校現場の実態は、教職員のまともな人間的生活を奪い、ものごとを考える時間を奪い、教職員同士のつながる場を奪い、目の前の子どもたちにふさわしい教育について考える時間を奪っています。「この状況が続けば、日本の教育は死んでしまいます。

す。一方、超勤是正は使用者(教育委員会・学校長)の責務という大前提を踏まえつつも、勤務実態調査の結果をみても、教育行政が示す業務改善政策では、超勤解消につながらないことは明らかです。中教審の「教職員の働き方改革」の緊急提言でも、肝心の教職員増員には全く触れられていません。残業時間の規制など、「働き方改革」がすすめられています。学校現場では時短の推進とともに、成果も求められます。この矛盾が超勤解消の議論をより難しくさせていますが、学校現場の超勤実態はもう限界。「負担軽減」は待ったなしです。

アンケート結果を活かして

「朝の指導の見直しを検討しよう」「残業率の低下を職員で議論して決めよう」「学校全体で統一した部活動休止日を設定できないか」「それは地域や保護者においてできるのでは」「妥協や良い意見を助ける運動」を呼んでくれています。

味での適当さも必要「タイムカードなどで正確な勤務実態の把握から」。学校業務の全てには意義があり、個人によって大切にしたい業務も、削減したい業務も異なります。「子どもたちのために多少の犠牲は仕方がない」「仕事をすることということがある」という声もあるでしょう。

「子どもたちの学習権の保障、学校づくりの観点を踏まえながら、まずは「教育とはどんな仕事なのか」「仕事とどのように向き合うか」をあらためて考え直し、超勤解消に向け、「業務の見直しや削減」などの具体的改善策を、仲間内で、職員間で、率直に語り合うことから始めてみませんか?

今年度で闘争を止めないでほしい

道高教組札幌支部は、賃金改善・生活と権利擁護・憲法平和を守る運動など毎年とりくんでいます。また、全教職員のみなさんへ情報共有するために支部機関紙「はばたき」を発行するなど行っています。活動を一層広げて行くためにも、財政面からのご支援もよろしくお願いいたします。

①児童生徒に関わって「大切にしたい」業務

朝の指導	241	11%
授業・授業準備	1789	83%
授業外の学習指導	221	10%
集団への生徒指導	496	23%
個別の生徒指導・教育相談	1218	57%
進路指導	628	29%
学校行事	528	25%
児童会・生徒会活動	62	3%
部活動・クラブ活動	433	20%
成績処理	111	5%
学級・保健室経営	373	17%
合計	6100	

②削減したい業務

学校経営・学校運営	336	16%
会議	627	29%
個別の打合せ	137	6%
事務処理・調査報告	1743	81%
会計	1162	54%
校内研修	425	20%
官制研修	1009	47%
出張	427	20%
合計	5866	

③外部対応で「削減したい」業務

保護者対応	305	14%
PTA業務	905	42%
地域対応	471	22%
行政・関係団体対応	1347	63%
中体連・高体連などの団体業務	825	38%
合計	3853	

④道教委の「時間外勤務縮減重点項目」の効果について

部活動休止日の設定	183	9%
割振り変更制度の活用	435	20%
管理職による業務管理の充実	114	5%
定時退勤日・超勤削減強調週間	233	11%
効果的なものはない	1305	61%
合計	2270	

⑤時間外勤務の把握実態について

事前に申し出ている	115	6%
事後に報告している	66	3%
事前・事後の両方	121	6%
管理職の目視	400	20%
時間記録表に記載	57	3%
独自の出勤記録簿	16	1%
何も行われていない	1041	52%
その他	202	10%
合計	2018	

⑥超勤解消に必要なこと

教職員定数の増員71%
業務に見合った人員配置61%
少人数学級実現41%など

⑦労働時間の把握について望ましい方法

管理職に口頭で報告	68	3%
管理職が目視で把握	81	4%
各自が勤務記録を付ける	213	11%
出勤記録簿に記載する	186	9%
タイムカード(ICカード)の導入	1159	57%
パソコンのON/OFFによる記録	128	6%
その他	192	9%
合計	2027	